

令和元年6月13日現在

機関番号：32682

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K01529

研究課題名(和文) 風土的野外教育の理論構築と教育実践に関する研究

研究課題名(英文) A study on theory construction and educational practice of Outdoor Education Using the Concept of "Fudo"

研究代表者

土方 圭 (HIJIKATA, Kei)

明治大学・法学部・専任講師

研究者番号：50375367

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、野外教育の理論的枠組みを関係概念としての「風土」に着目して再構築し、この風土的野外教育における実践上の要点を明らかにすることであった。

前者については、野外教育を実践する場合に、必然的に認めねばならないという最小限度の不可欠な論点についての5つの明文化がなされた。また、後者については野外教育実践を自己評価する用具を提出した。これは「野外」の軸における風土性の3要素：身体(体験)性、空間(場所)性、時間(歴史)性と、「教育」の軸における教の重視(意図的教育)と育の重視(無意図的教育)という2つの観点をそれぞれルーブリックを援用し評価するものとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

野外教育の分野で現在まで整理されてこなかった実践の足場となる原則(背景となる理論)について明文化された。これにより実践や研究において共通の認識のもと様々な議論を行えるようになり当該分野の発展に寄与することが期待される。

また、この実践の学における理論を空論としないために、明文化された原則を参考にして指導者が野外教育実践を自己評価する用具の開発を行った。これにより野外教育の「野外」とは何かといった観点や野外教育の「教育」で特筆すべきは何か、といった本質的な視座から実践に反省的省察を行えるようになった。これにより生きる力の醸成等に効果的とされる野外教育実践が更に充実し大いに社会に貢献するであろう。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was to restructure the theoretical framework of outdoor education focusing on the "Fudo" as a related concept, and to clarify the practical points in outdoor education.

There were five view points on the minimal essential issues that must be recognized when practicing outdoor education. In addition, we presented a tool for self-assessing outdoor education practice. This is the three elements of "Fudo" in the "outdoor" axis: physical (experience), space (place), time (history), and the two perspectives of emphasis on teaching (intentional education) and emphasis on education (intentional education) in the "educational" axis. They are respectively evaluated using rubrics.

研究分野：野外教育 身体教育

キーワード：野外教育 原理 風土 自己評価

様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19（共通）

1. 研究開始当初の背景

自然環境での直接体験を本質とする「野外教育」では「生きる力」とのポジティブな関係が多く報告されている。しかし当該分野において「野外（及び自然）とは何か？」や「野外教育における教育の特徴とは何か」また「なぜ人間にとって野外が効果的なのか」といった哲学的議論は僅かであった。このような理論的背景の脆弱さは野外教育実践における「場（野外）の意味」を曖昧にし、このままでは「生きる力」を揺さぶるような野外教育の潜在力発揮を妨げかねない状況であった。

2. 研究の目的

本研究では、まず関係概念としての「風土」に着目し野外教育の理論的枠組みを構築することを目的とした。

その後、さらにこの風土的野外教育における実践への適用を進めるために、これらの要点を教育実践に活用可能にした評価用具を開発し、理論と実践を架橋することを目的とした。

以下に具体的な内容について記す。

- (1) 「風土」概念が野外教育実践に示す方向性と内容を明文化する（理論の構築）
- (2) 野外教育の実践をどのように捉えるかについて「風土」の視点を交えて検討し、それらを教育実践で活用可能な評価用具に落としこんでいく。

3. 研究の方法

- (1) 筆者によりなされた野外教育における「野外」の定義に基づく基本的原理の明文化
風土を介して野外教育を探求する際に、これを欠いては風土的野外教育が成立しえず、認めねばならない最小限度の不可欠な基本的原理を仮説的に提起した。先に検討され「風土」により再定義された「野外」概念に基づき、その内容に即して明文化し具体化する方法により実施した。その後、風土的野外教育の基本的原理を野外教育の専門家1名で精査し、明文化した。

- (2) 野外教育実践の可視化

先の「野外教育の原理の明文化」による知見を援用して、野外教育実践者が自身の活動を布置（マッピング）可能にする二次元マッピング図を提案した。この図は、「教育」をX軸、「野外」をY軸にとり直交させ、平面上に二つの情報を有する座標（X、Y）として定位可能にする（X軸→教育軸：教の重視（意図的）・育の重視（無意図的）、Y軸→野外軸：風土性高・風土性低）

4. 研究成果

- (1) 野外教育を実践しようとする場合これを除いては（風土的な）野外教育が成立し得ず、必然的に認めねばならないという最小限度の不可欠な論点についての明文化がなされた。以下に記す。

I 野外教育実践では風土および風土性が意識されるべきである

I-1 野外教育実践では身体的な関わり合い（体験、あるいは実存的に外に出ること）が意識されるべきである

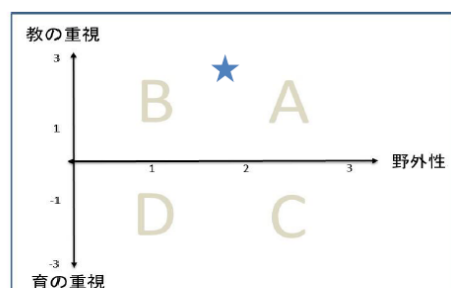
I-2 野外教育実践では地域（実践の場）の自然は生活的自然として理解され扱われるべきである

I-3 野外教育実践では地域社会・人々の自然との関わりにおける共同性・共同関係が理解され扱われるべきである

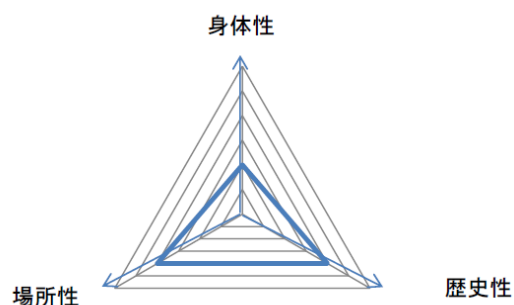
I-4 野外教育実践では地域の自然と人々との関わりにおける一体性・身体的関わりが理解され扱われるべきである

以上、野外教育の実践において不可欠な論点として提示・明文化された。

- (2) 野外教育実践を自己評価する用具を提出した。これは「野外」の軸における風土性を構成する身体（体験）性、空間（場所）性、時間（歴史）性という3つの要素と、「教育」の軸における教の重視（意図的教育）と育の重視（無意図的教育）という2つの



A 野外性高 × 教の重視(教育意図的) B 野外性低 × 教の重視(教育意図的)
C 野外性高 × 育の重視(教育無意図的) D 野外性低 × 育の重視(教育無意図的)



クを援用し評価するものであった。また、先の風土性を補足する契機を布置の要素とする別の図：正三角形のレーダーチャートも作成した。

これら野外の3要素ならびに教育における2つの観点は考慮すべき野外教育の実践上の要点といえる。

この評価用具により、指導者が自分の教育実践について反省的省察を実行することができる。

		観 点	-3	-1	1	3
教育	教の重視か育の重視か		指導者の意図に沿った展開が遂行され、教えることが最優先される。	指導者の意図が偶発性よりも優先され、教えることが中心ながらも、育むことも意識される	偶発性が指導者の意図よりも優先され、育むことが中心ながら、教えることも意識される	偶発性による展開が見守られ、育むことが最優先される。ファシリテーションが最優先される。
	教育意図高か教育意図低か					

		観 点	0	1	2	3
野外	身体性	身体を介する程度 直接体験の程度	身体を介した体験活動をほとんど伴わない	身体活動が比較的少なく、体験も間接的である	身体活動が比較的多く、どちらかというと直接的な体験が多い	身体を介した直接的な体験活動が非常に多い
	場所性	場所の意味への配慮の程度(空間性への配慮) 自然環境に対する捉え方 例えば気候・地形・土質・山野河海の構造・生態系などの空間的要因に関する意識の程度	特定の場所(空間)で活動する意味については無頓着で、どこで活動しても同じである	特定の場所(空間)で活動する意味についてはあまり意識しておらず、その独自の環境と活動の関係にもあまり考慮がない	特定の場所(空間)で活動する意味を見出し、その環境と活動の関係を意識し、活動に反映している	特定の場所(空間)で活動する意味を積極的に見出し、その独自の環境と活動の関係に強く意識を向けている
	歴史性	地域の人々の共同的な関わり方やその歴史が反映されているか(時間性への配慮) 地域の生活様式が反映されているか 例えば衣食住の様式、人間関係、集落の構造、授や倫理、社会的制度、風習や生活習慣、慣れ、芸能、宗教、言語、気質や精神などの時間的要因について意識をしている	特定の地域の人々の共同的な関わり方やその歴史(時間)に関連させて活動することなどが考慮されず、活動にもまったく反映されていない	特定の地域の人々の共同的な関わり方やその歴史(時間)に関連させて活動することなどがあまり考慮されず、活動にも反映されていない	特定の地域の人々の共同的な関わり方やその歴史(時間)に関連させて活動することなどが反映している	特定の地域の人々の共同的な関わり方やその歴史(時間)に関連させて活動する意味を積極的に見出し、活動に大きく反映している

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 2 件)

- (1) 土方圭、張本文昭、野外教育の可視化：教育と風土の概念整理に基づく二次元マッピング、野外教育研究、日本野外教育学会、査読有、巻号未定、
- (2) 土方圭、風土概念により再解釈された野外教育の原理の明文化、野外教育研究、日本野外教育学会、査読有、20 巻 1 号、2016 pp1-11q

〔学会発表〕(計 4 件)

- (1) 土方圭、野外教育における「野外」概念の検討 第二報 - 「風土」概念による再定義の試み-、日本野外教育学会第 19 回大会
- (2) 土方圭、張本文昭、野外教育を可視化する - 教育と風土の概念整理に基づく二次元マッピングの試み -、日本野外教育学会第 20 回大会
- (3) 土方圭、教育と風土の概念整理に基づく二次元マッピング - 第二報 -、日本野外教育学会第 21 回大会
- (4) 土方圭、張本文昭、野外教育学の体系に関する試論、日本野外教育学会第 22 回大会

〔図書〕(計 1 件)

- (1) 土方圭、張本文昭、多田聡、野外教育学序説、三恵社、2019、愛知

〔産業財産権〕

○出願状況 (計 1 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年：
国内外の別：

○取得状況 (計 1 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：

番号：
取得年：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：

ローマ字氏名：

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。